



# 身近な自然の観察・記録活動 石神井川緑道版

2023.2.9

一人ひとりの自主活動 だれでも参加できます

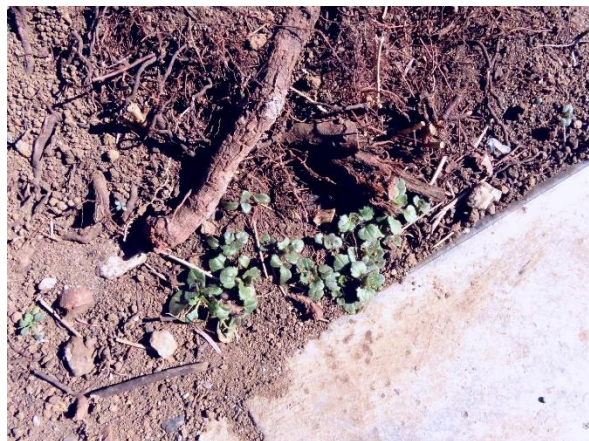
活動：月2回(第二木曜日・第四金曜日) (雨天は小雨でも中止)  
コース：帝京大学付属病院北詰・御成橋たもと → 金沢橋  
問合せ・連絡先：090-8646-9757 木村松夫 com-matchan@hotmail.co.jp

2023年2月、3月の石神井川観察は、2/24(金)、3/9(木)、3/24(金)

9:30JR 社宅前街路の観察 10:00 帝京大学病院北側の御成橋たもとから再出発



## 川面のカルガモも春の準備中 産卵・子育てのために栄養をとって、まるまると太っています



2/9の石神井川緑道観察。北と西からの風が吹きすさび、肌を刺すような寒い日でした。気温は、9:30の第1エリア(JR社宅前)スタート時で4.5℃。前回1/27の同じ場所同じ時刻の気温が4.3℃でしたから、ほとんど変わらないのですが、第2エリア(帝京大学病院前)になると7.0℃と、前回の5.5℃よりも暖かくなり、第3エリア11:00/9.0℃(前回は7.0℃)、第4エリア12:00/11.5℃(同6.8℃)と時間を追っていくほどに高くなってきて、風のない陽だまりではほっとする暖かさを感じるようになりました。

帝京大学病院前の改装された歩道の植え込みは裸の露地で何にも生えていないので通り過ぎたら、お仲間みなさんは何かを見つけたようです。近寄って見ると、カサカサの土からフラサバソウの葉が出ていました。最近、参加のみなさんの観察眼が肥えてきました。



←その**フラサバソウ**があちらこちらで花をつけていました（正面を向いているのは蕾、上を向いて白く見えるのが花）。まだ春にならないうちに咲き始めて、ここ数年間では「春一番の花」になっています。よ〜く観察すると、葉の裏も表も茎も、全身細かい毛が生えています。これが寒さから身を守る毛布代わりになって、寒さに耐えて早期に花を咲かせる秘密です。

この日、開花を観察できた種は、このフラサバソウのほかに、**オオイヌノフグリ**（右の写真）、ノゲシ、オキザリス（黄花と白花）、コハコベ、セイタカアワダチソウ、カモジグサ、ツメクサ、オオアレチノギク、オランダミミナグサ、ヒイラギナンテン、ツバキ、サザンカ、ツルニチニチソウ、ヒメオドリコソウ、チチコグサモドキ、ムラサキカタバミ、ホトケノザ、タンポポ交雑種、ユーリシスオプスデージー、キュウリグサ、ソシンロウバイ、ヤブタバコ、スズメノカタビラ、イチゴツナギ、カタバミ、アベリア、計 27 種（うち野草 19 種）でした。前回観察では全 19 種（うち野草 10 種）でしたから、



花を付けている植物は確実に増えていて、春が近づいていると言えます。本来は冬や春の花ではないものや季節外れ咲きのものが目立ちます。

←**ホトケノザ**

左は先端の蕾のようなものの中におしべとめしべを持つ閉鎖花。右が本格的に開花した姿。

## 『Tomorrow パーマネントライフを探して』という映画

昨年の秋、石神井川沿いのアートモニュメントを巡るスタンプラリーを実施した若いママさん渡邊有紀子さんの企画による映画会が 2/5 にありました。シ rilル・ディオンというフランス人の作家・映画監督が制作した映画です。気候温暖化や食糧危機がどれほど深刻なのかの現実を見つめ、まちなかに農園をつくるなど食糧とエネルギーが自足できる小さなコミュニティを作ることが生き残る道であり、そのための社会・経済・政治のあり方まで説いています。環境問題を訴える映画は多いのですが、解決策まで提示したものは少なく、とても良い映画でした。

定員が限られていたので、みなさんにはお知らせできなかったのが残念でした。